

事務事業名		税に関する作品表彰参画事業					評価区分(事前評価・事後評価)		事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	5 市民みんなで作る夢のあるまちづくり					事業区分	担当	総合政策部	担当課	市民税課
	政策	2 自立した行政経営によるまちづくり						担当係	税政係	担当課長名	片野 憲
	施策	2 持続可能な財政運営の推進						新規事業・継続事業	継続事業		
	基本事業	1 市税の収納率の維持・向上						実施計画事業・一般事業	一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名	市単独事業・国県補助事業	市単独事業			
	2706	一般	2	2	1	税に関する作品表彰参画事業	任意的事業・義務的事業	任意的事業			
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	S42年度～ 年度		根拠法令 条例等		実施方法	直営			
							事業分類	参画事業			
							リーディングプロジェクト	該当なし			
							市長マニフェスト	該当なし			

1. 事務事業の現状把握[DO]

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)						
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)			
佐野税務署管内納税貯蓄組合連合会が主体となり、市内中学生の税に関するポスター・作文を募集している。 税に関する標語については、平成22年度から正しい申告と納税推進都市協議会が主体となっており募集している。 入賞者について表彰を行い、作品を展示する。			税に関する標語作品の予備選定 納税表彰式(佐野税務署が主体)の運営補助 市長賞の賞状作成 東仮庁舎2階、佐野駅前交流プラザ「ばるぼーと」、イオン佐野新都心店セントラルコート等で作品の展示			
活動指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)
作品の展示箇所数		箇所	4	6	6	
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)						
市内の中学校・高等学校の生徒 市民			対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)
			生徒数(市内の中学校)	人	7,847	7,809
			市人口	人	123,182	122,522
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)						
中学生には税に関するポスター、作文、標語を、高校生には税に関する作文を作成してもらうことで、税に対する関心を持ってもらう。 表彰になった作品を展示し、市民に見ていただくことで、市民の納税意識の高揚を図る。			成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)
			応募作品数	点	2,283	2,229
					2,300	
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)						
十分に歳入が確保されている。			上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)
			収納率(現年度課税分)	%	98.7	98.9
					98.5	98.5

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	0	0	1			
	事業費計(A)	千円	0	0	1	0	0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			筆耕翻訳料	0	筆耕翻訳料	0	筆耕翻訳料	1
人件費	人	3	3	3				
のべ業務時間	時間	60	60	60				
人件費計(B)	千円	233	236	236	0	0		
トータルコスト(A)+(B)	千円	233	236	237	0	0		

事務事業名	税に関する作品表彰参画事業	担当部	総合政策部	担当課	市民税課	担当係	税政係
-------	---------------	-----	-------	-----	------	-----	-----

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	昭和42年から開始された。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	三位一体の改革による税源移譲や政権交代の影響などにより、税制改正が毎年行われ、目まぐるしく変化している。景気は、緩やかな回復基調が続いているものの、納税意識が低下していることなどにより、収納率の向上に苦慮している。 標語の募集については、平成21年度中止されたが、22年度再開された。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	なし

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	
	結びついている	理由・改善案 この事業は、佐野税務署管内納税貯蓄組合連合会をとおして、中高生に対し、税に対する関心を持ってもらうことと、表彰になった作品を市民に見ていただくことで、市民の納税意識の高揚を図るものである。これらにより、市税の収納率向上、歳入の確保につながる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	
	市が行わなければならない	理由・改善案 この事業は、中高生の教育の中で、税について考え、関心を持ってもらうことなので、このことは将来的にも納税の意識向上につながるため、市が関与することは妥当である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	
	妥当である	理由・改善案 中学生には税に関するポスター、作文、標語を、高校生には作文を作成してもらうことで、税について考え、関心を持ってもらうことと、その表彰になった作品を展示し、市民に見ていただくことで、市民の納税意識の高揚が図られるものであるため、対象、意図とも妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	
	成果向上余地がない	理由・改善案 22年度から中学2年生を対象に標語の募集を再開し、より多くの生徒から作品を応募してもらっている。多くの生徒に税に関心を持ってもらうことになり、成果は十分出ている。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	
	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名
	*類似事務事業があれば、名称を記入	
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	
	事業費の削減余地がある	理由・改善案 事業費は、表彰状作成料であるが、全文書き(筆耕)ではなく、既存の表彰状を使用し、本文及び氏名をパソコンから印刷しており、削減を図っている。 この事業に係る人件費は削減する余地はない。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	
	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案 この事業に受益者負担はそぐわない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)	
	生徒には応募することで税に対する関心を持ってもらうことと、表彰になった作品を市民に見ていただくことで、市民の納税意識の高揚を図るものであり、継続する必要がある。	

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																				
事業のやり方改善(コストの見直し) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。) 市長賞の表彰状作成は、既存の用紙を使用し、本文及び氏名はパソコンで印刷し、事業費を削減する。ただし、人名用漢字等以外のパソコンに格納されていない外字等の場合は難しい。	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>成果維持</td> <td>○</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	向上				成果維持	○		×	低下		×	×	平成24年度～平成26年度は、パソコンから印刷し、コスト削減を図った。パソコンにない外字の場合は、筆耕を依頼することになる。
	コスト																					
	削減	維持	増加																			
向上																						
成果維持	○		×																			
低下		×	×																			